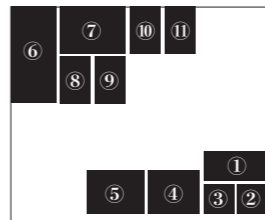


奥松瀬川を つなぐ人

奥松瀬川地域で地域創生に励む人々たち取材。
次世代に向けて築き・つなぎ・伝える奥松瀬川の今とこれからを追う。



1_ほっこり奥松で開催された朝市。住民同士の話が弾む／2_子どもたちもほっこり奥松で楽しいひとときを過ごす／3_イベントで出す惣菜は地域住民たちから人気／4_「ありがとう」と嬉しそうにパンを購入する地元の住民／5_奥松瀬川創生会議の渡部光右衛門さん／6_奥松瀬川地区の人にとって子どもは宝／7_ほっこり奥松は地域の人たちの憩いの場／8_朝市で地域の人から商品を教えてもらう／9_イベント時のパン作りは朝6時から始まる／10_イベント時に販売される手作りのリス／11_奥松瀬川地区は自然豊かで遊びが尽きない



松瀬川は本谷川に沿う奥松瀬川と表川に近い前松瀬川流域に位置する。奥松瀬川地域の川筋・音田地区には地域の神社「五柱神社」がある。神社に向かう石段の下には枝垂れ桜、初夏にはヒメボタルが飛び交う。檜皮・添谷地区には、奥松瀬川公民館、地域創生・交流拠点「ほっこり奥松」がある。添谷地区の田んぼのほとりにはヒメユリが咲きこの近くの池の周りでは「陶石」がたくさん取れる。川内ゴルフ場前にある正岡子規の句碑「追ひ詰めた 鶴鶴見えす 溪の

景」は子規が三軒屋・上ヶ成地区の景色のよさを詠んだ句。道前道後用水の疏水も通っており道後平野用水の要を担っている。以前は三軒屋焼きの窯元もあった。
「人口減少が進む現代、10年先の奥松瀬川のことを考えた時に、今からやらなければいけないと思った」。そう話すのは奥松瀬川創生会議 事務局長の渡部光右衛門さん。奥松瀬川地区は人口減が進む。現在、3000人弱が奥松瀬川地区に住んでいるが、10年前と比べると、20人ほどの人口が減った。たった20人だが、現在の人口比から考えると6%ほど減っていることになる。そして、現在の東温市の高齢者の割合は33%を超える。奥松瀬川地区も例外ではない。
「まず協力してくれる関係作りや人手が大事だ。それができたら次のステップの『活性化』に繋げられる。地元の人々が地域のことに関心を持って、奥松瀬川地区に関わってくれる関係人口を作る。高齢化が進み人口は減る中で、自分たちだけで地域おこしは難しい。活性化できる希望を持つためには人がいないといけない」と渡部さんは話す。
そこで、奥松瀬川地区では地域おこし協力隊を受け入れ、奥松瀬川創生会議を立ち上げ、地域交流拠点「ほっこり奥松」を作った。交流農園「ぼ

築く Build



奥松瀬川の地域づくりは人づくり

「人口減少が進む現代、10年先の奥松瀬川のことを考えた時に、今からやらなければいけないと思った」。そう話すのは奥松瀬川創生会議 事務局長の渡部光右衛門さん。奥松瀬川地区は人口減が進む。現在、3000人弱が奥松瀬川地区に住んでいるが、10年前と比べると、20人ほどの人口が減った。たった20人だが、現在の人口比から考えると6%ほど減っていることになる。そして、現在の東温市の高齢者の割合は33%を超える。奥松瀬川地区も例外ではない。
「まず協力してくれる関係作りや人手が大事だ。それができたら次のステップの『活性化』に繋げられる。地元の人々が地域のことに関心を持って、奥松瀬川地区に関わってくれる関係人口を作る。高齢化が進み人口は減る中で、自分たちだけで地域おこしは難しい。活性化できる希望を持つためには人がいないといけない」と渡部さんは話す。
そこで、奥松瀬川地区では地域おこし協力隊を受け入れ、奥松瀬川創生会議を立ち上げ、地域交流拠点「ほっこり奥松」を作った。交流農園「ぼんぼこ農園」では貸し農園として市外から利用者を受け入れる。さらに、荒廃地・放棄地の整備事業や特産品の開発など奥松瀬川地区の発展は続いている。渡部さんは、「地域の今後を話すに当たって、住民の中で意見がすれ違ったことがあった。できるだけ耳を傾け、折り合いをつけていった。特にほっこり奥松で開催される体験教室はそれぞれの部会の人たちの努力でここまでこれた」と笑顔で話した。
渡部さんはこれからの奥松瀬川地域について、「若い人たちが奥松瀬川でお金を生み出し、生活できることを目指していきたい。10年経つとさらに高齢者が増える。移住者や若い人が生活をしながら、新しい地域の文化を作ってほしい」と話す。さらに、「昨年川上小学校5年生が遠征で奥松瀬川地区を訪れるようになった。一番は子どもに興味を持ってもらうことが大切。若者が支えていく力。」



1_ さくら夢太鼓 夢童の太鼓がツリーハウスの前で響き渡る／2、3_ 友達と自然を目の前にして弁当を食べる／4_ 古くから五柱神社に飾られた絵を鑑賞する／5_ 五柱神社の森東洋司宮司から神社や地域の自然について学ぶ／6_ 奥松瀬川地区の自然を感じながら歩く／7_ 奥松瀬川地区に住む妖精の絵を想像しながら描く

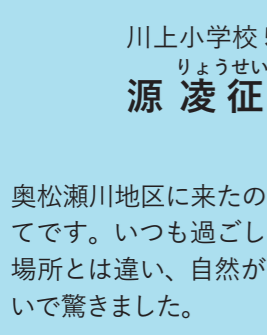


小学生にインタビュー



川上小学校5年生
ちさこ
柿坂 千咲子 さん

地域の皆さんが温かくていいところだと思いました。五柱神社が長い間たくさんの人に守られてきたことが印象に残りました。



川上小学校5年生
りょうせい
源 凌征 さん

奥松瀬川地区に来たのは初めてです。いつも過ごしている場所とは違い、自然がいっぱいで驚きました。



ら、神社の建物の歴史を学び、神社の近くに生息する虫や植物の話を見聞たちは真剣な眼差しで聞いていた。また、ツリーハウスで「さくら夢太鼓 夢童」の太鼓の演奏を楽しんだ後、奥松瀬川地区に住む妖精をイメージしたキャラクターの絵を描いた。歴代の5年生が描いた妖精の絵は、ほっこり奥松の

体験棟に展示されている。住民によって選ばれた作品はクリアファイルの挿絵となり、地域住民に配布された。児童たちは自然豊かな景色を眺めながら、友人と思い思いにキャンパスに妖精の絵を描いた。「学校との地域交流学習は今後も続けたいと思っています。そして、今年子どもたちの自然体験の場『森のようちえん』の完成を予定するなど子どもたちと地域をつなぐ事業は力を入れています。奥松瀬川のこれからの担う子どもたちのことは大切にしていきたいです。できるだけ多くの人に聞わってもらうために、今後も奥松瀬川の魅力を伝え続けます」と森田さんの目は明日を見据えた。

し広く活動を知ってもらおうねらいがある。特に将来を担う子どもたちとの関係作りは重要だ。奥松瀬川地区が目指すのは自然を活かした体験活動を通して、地域で生まれ育った子どもたちが地域と関わりのある子どもたちが帰りたいくなる地域づくりだ。3月2日、川上小学校5年生の児童が遠足で奥松瀬川地区を訪れた。川上小学校から奥松瀬川地区まで歩き、地域の人と触れ合いながら自然を味わい、文化を学んだ。五柱神社の森東洋司宮司が

伝える Tradition

次世代に奥松瀬川を継ぐ 後世に残したい宝。



1_ ほっこり奥松の前で遊ぶ子どもたち／2_ ほっこり奥松のピアノは誰でも自由に弾ける／3_ ツリーハウスの前に住む看板ヤギ／4_ 出来立てのパンを頬張る／5_ 奥松瀬川創生会議の森田将史さん／6_ 手作りのクリアファイル。奥松瀬川の生き物や子どもたちが描いた妖精の絵がプリントされている／7_ 奥松瀬川地区の軌跡「希望の田舎 奥松瀬川」／8_ スイーツ部が作る人気の焼き立てパンは奥松瀬川で月3回販売される



「以前、別の自治体で協力隊として活動していた時に、地元の人々をターゲットにしたことが、結果的にメディアに取り上げられるなど、外部の人に興味を持ってもらいました。だから奥松瀬川でもそんなやり方をしてみようと思いました」。地域交流拠点「ほっこり奥松」

地元の人たちから 発信できる力をつける。



は、住民主体の運営で、地元の野菜や手芸品・焼きたてパンの販売や、体験教室などが行われている。当番の住民を通じて新たな人が利用する。「教室は地元の人自分たちのために楽しめる場として開講しましたが、結果として口コミで広まり、市内の別の地域の人たちや、市外の人が来てくれるようになり



3月に奥松瀬川の5年間軌跡と今後の展望を記した「希望の田舎 奥松瀬川」奥松瀬川が創ってきたもの」が奥松瀬川地区の農林業分野の創生を担う奥松瀬川地区農村活性化協議会から発行された。地域交流拠点「ほっこり奥松」、交流農園「ぼんぼ農園」、荒廃地・放棄地の整備事業など、奥松瀬川地区が取り組んできたこれまでの軌跡と数年先の目標が示されている。住民にはもちろん、地区外にも配布

「数年前、奥松瀬川の人たちが自分のために結婚式を開いてくれました。そのお返しをした気持ちで自然の中で子育てもしたいと思っています」。そんな思いから森田さんは今も奥松瀬川創生会議の会員として活動している。森田さんは今の奥松瀬川地区の現状について「若い人手が必要。もう一歩地域に踏み込んで入ってほしいです。若い人が入ると全く別の団体になると思います。奥松瀬川を残すために大事なことをしていることを知ってもらいたいです」と語った。

繋がる Connect

「数年前、奥松瀬川の人たちが自分のために結婚式を開いてくれました。そのお返しをした気持ちで自然の中で子育てもしたいと思っています」。そんな思いから森田さんは今も奥松瀬川創生会議の会員として活動している。